

世界史研究推進委員会

研
究
同

「歴史研究と歴史教育」および「世界史への興味
・関心を育む教材・指導法の研究」経過報告

大清水高校 堀部 宏 人

今年の世界史研究推進委員会の目玉は「高大連携」でした。八月一日、二日に大阪大学大学院文学研究科の桃木至朗教授を中心とするメンバー4名と共同で行った特別授業「東アジア・東南アジア世界をどう教えるか」（於栄光学園ホール）には、外語短大付属高校や栄光学園など多くの生徒が集まりました。他都県の教員も参加し、大盛況でした。今後もぜひこの試みを継続したいと思えます。お世話を頂いた大島弘尚先生と栄光学園にこ場で感謝を申し上げます。

本委員会ではここ数年、授業改善をめざした取り組みの中を続けていますが、とくに近年の歴史研究の成果を授業にどのように反映させるのかという点について検討を重ねてきました。この企画は小林克則先生（厚木商業高校）の連続講演「世界史における旧説と誤解」に触発されて始まった研究ですが、私たち世界史教員が高校生頃に学んだ内容が現在ではどのようなとらえ直されているのか、が共通の焦点になりました。発表者それぞれのレポートを聴くたびに、そして早川英昭先生（大船高校）や石橋功先生（外語短大付属高校）のサジェスチョンを頂いて、何度も目から鱗が落ちる思いをしました。

この度、本委員会メンバーが中心となって執筆した『世界史をどう教えるか―歴史学の進展と教科書―』（山川出版社）にも、従来
の通説であったマルクス主義的な発展段階論や、「国家」や「国民」
を単位とする一國史観を見直すような方向性が示されています。

また、ゲストに手塚尚先生（前・上矢部高校）を迎え、「神戸を覆う暗黒」（B29搭乗員などアメリカ人戦争捕虜の手記の翻訳）や「ウェーク島とアジア・太平洋戦争」など貴重な発表をしていただきました。このほかにも授業実践例の報告、資料プリントや観点別評価の取り入れた試験問題の交換などが行われています。

昨年度にまでの皆様のご理解とご協力には感謝しております。本委員会では二〇〇八年度から新しいメンバーを迎え、研究のさらなる継続とその成果の情報発信を続けたいと思えます。

なお、社会科学部会秋季研究大会、および関東歴史教育研究大会兼歴史分科会春季発表会での発表は、次のとおりでした。

「非欧米・被支配者にとつての近代」

澤野 理（川崎工業高校）

「ピレンヌ・シチリア・十字軍

―ヨーロッパ中世の教え方の一考察―」

佐藤雅信（横須賀大津高校）

「戦後史のとらえかた」

西浜吉晴（大和高校）

本年度は以下の場所を研究推進委員会の会場にお借りしました。
外語短大付属高校（第1回・四月二五日、第2回・六月二七日：日本史研究推進委員会と合同、第3回・八月二九日）
神奈川県民センター（第4回・十月四日）
栄光学園（第5回・十一月一日）
大船高校（第6回・二月六日）。